

第3回岩見沢市障がい福祉計画策定委員会 要旨

日時：平成30年1月17日（水）14時～16時10分

場所：であえーる岩見沢4階 会議室1

出席委員： 堀委員長 佐藤（恵）副委員長 三宅委員、佐々木委員、板井田委員、岩崎委員、齋藤委員、橘委員、湯浅委員、江田委員、内海委員、畑委員、北市委員、森口委員、川瀬委員、福士委員、佐藤（昌）委員、梅田委員、嵯峨委員

欠席委員： 牧委員

事務局： 石崎健康福祉部長、出口健康福祉推進担当次長、瀬野福祉課長、青山福祉課主幹、山田障がい者福祉グループ担当主査、長谷川障がい者福祉グループ担当主任

手話通訳者：佐々木囑託員 林手話通訳者

<委員長挨拶>

堀委員長の進行により、各項目について事務局より報告後、質疑応答
主な内容は次のとおり

<障がい福祉に関する意見を聞く会>

- ・今まで障がい福祉のサービスを利用してきた方が、65歳になると介護保険サービスに移行するが、ケアプランを作成するケアマネージャーが、障がい福祉の制度をわからない方もおり、ケアマネ研修の中に障がい福祉に関する項目をいれるなどしてはどうか
→計画の中に盛り込むのは難しいが、研修や人材育成の観点から今後どのような支援ができるかは検討したい
- ・発達障がいのある方は、社会に出ても適応できなく悩む方がおり、発達障がい専門の支援機関はあるのか
→計画の中に盛り込むのは難しく、発達障がいに特化した支援機関が少ない現状があり、地域の課題として受け止めたい。

<アンケート調査>

- ・各種サービスを利用していない方の数値が高い、利用していない理由が具体的にわかれば、それを解決し利用できる方も増えるのではないかと
- ・今後利用したいと回答した方は、今までどんな理由があっただけで利用できなかったのか、その辺をもう少し深く聞き込んで解決していくと、より利用者が増えてこの計画にも活かされるのではないかと
- ・岩見沢市の方で、療養介護のサービスを利用している方はこんなにいると思う
→実数とは異なる数が回答にあがっており、回答した人がこのサービスの中身を十分に理解せずに回答した場合もありえると思う

<施設整備予定量調査>

- ・平成 30 年 4 月以降は、制度改正があり状況は激しく変化することが考えられる中、事業所としても今後の見通しが中々立てられないというのが現状にあり、その中で提供する事業所が困らないような数字の見込み量に策定することが求められる
→整備見込量については、次回の策定委員会お示ししていきたい。岩見沢市内事業所の定員などの現状については、追加資料を作成してお示ししたい
- ・福祉現場に営利的に入ってくる新規事業所が増えてきているが、事業所指定は北海道の権限で行うため、岩見沢市では規制がつかず、事業所認可がされれば、整備量として見込む必要があり、どう設定するのが委員会の中では大事なポイントになる

<第 1 期障がい児福祉計画について>

- ・子どもを受入れる保育所としては、発達に遅れのあると疑われる子どもがいても、保護者からの相談のない場合は、通常保育で受入れているのが現状、相談がないと保育所としては、その子にあわせた良い保育を提供できなく通う子どもも大変な思いをする、保護者から申込みの段階で子どもの特性を伝えてもらうだけでも受入れる保育所としては助かる
→保護者として子どもの障がいの受容といった部分に繋がるためなかなか難しい部分があるが、発達に遅れがあったとしても、その後適切に療育を行えば成長の過程で変わってくると聞いており、良い方向に向かうように保健師の指導や相談事業も含めて進めていきたいと考えている

- ・ 保育所等訪問支援というサービスがあるが、提供できる事業所や保育士の確保が難しく全然普及していない現状がある、発達障がいや自閉症の子と一緒に過ごす環境が良いという考えもあれば、それぞれの別々の専門の環境で過ごすのが良いと考えるもある、色々な考え方があつたため何が良いのか考える部分はある
- ・ 医療型児童発達支援や医療ケアが必要な児童のサービスは、この周辺には資源がなく、課題だと感じる
- ・ 児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所が増えたため、療育の必要な子どもを受け入れる場はあるが、医療的ケアが必要な子どもを受け入れる保育所がみつからないなど、今までにない問題が顕著に出てきている。
- ・ 保育所等訪問支援の事業所が「ゼロ」というのは、開設できない原因がなにかあるかもしれないが、「ゼロ」で良いという話にもならない、開設したい事業者がでてきた時に対応できるように見込量の設定が必要
- ・ 「障がい児福祉計画」は、この「障がい福祉計画」の中に含まれるのか、それとも「障がい福祉計画」とは別に他の計画が作られるのか
→ 岩見沢市では、一体的に策定したいと考えている、基本計画（第2期障がい者福祉計画）は、6年計画の現在3年目であり、また3年後に基本計画と見込量の計画（障がい福祉計画・障がい児福祉計画）を併せて見直しするタイミングがくるため検討したい
- ・ 現状として発達障がいの子どもは、どのくらいいるのか。
→ 発達障がいのある子どもの数は、正確な数値としては把握していないが、岩見沢市で福祉サービスを使っている子どもは、200人程度いる、文部科学省の調査によると、10数%は発達に障害がありそうだと学校の先生が答えたという結果がある、30人クラスだと、3~5人くらいに何かしら発達に障がいがある子どもがいるという調査結果がある、岩見沢市の正確な人数は把握は出来ていないというのが現状である。

<その他>

- ・ 次回の策定委員会の開催は2月中旬を予定。